

20150621（公社）北海道鍼灸師会学術講演会・抄録

学校法人後藤学園ライフエンス総研

中医学研究所 所長 兵頭明

演題：多職種連携をベースとした認知症に対する鍼灸治療の実際と可能性

【抄録】

2015年には、「ベビーブーマー世代」が前期高齢者（65～74歳）に到達し、その10年後（2025年）には高齢者人口は約3500万人に達すると推計されています。一方、65歳以上のご高齢者のうち認知症の人は推計15%で、2012年時点で462万人にのぼることが、厚労省研究班の調査でわかりました。また軽度認知障害（MCI）と呼ばれる「予備軍」の人が約400万人いることも報告されています。

2025年問題の中では、認知症の人が700万人に達し、高齢者医療費も増大し21兆円になるだろうと言われております。とりわけ認知症の問題が最も深刻な社会問題となることは明白です。国は今年1月27日に「認知症施策推進総合戦略」（新オレンジプラン）を打ち出し、7つの柱を具体的に提示しています。

時代のニーズに応えるためにも、今こそ長きにわたり東洋医学が実践してきた統一体観および予防医学の観点を重視し、多職種連携の中でご高齢者や認知症の人に対して全人的・総合的な角度からサポートが行える鍼灸専門人材の育成が急務だと考えられます。世界の超高齢社会となった日本では、健康長寿の実現、健康寿命の延伸に向けて、今後ますます東洋医学が得意としている予防医療、統一体観にもとづいた全人的・総合的なサポートによるご高齢者、認知症の人に優しいエコ医療が大いに期待されることでしょう。

学校法人後藤学園は平成26年度文部科学省委託事業において、「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の認定を受け、認知症の人に寄り添う新たな人的資源となる中核的鍼灸専門人材育成を目的として、日本初となる西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系3分野連携による認知症患者対応型モデル教材の開発を進めてまいりました。

多職種との相互理解を深め、多職種との協働体制を作りながら、このモデル教材を活用することができれば、下記テーマの実現に向けて一定程度の可能性が期待されます。

- ① 認知症に対する東洋医学の考え方（予防法・対応法）の普及・啓発の推進
- ② 認知症の人の容態に応じた鍼灸による全身調整をベースとした全人的・総合的な角度からの支援
- ③ 鍼灸による認知症の人の認知機能低下の抑制
- ④ 軽度認知障害の人のアルツハイマー型認知症への移行予防
- ⑤ 鍼灸による認知症の人のご家族および介護者への支援
- ⑥ 東洋医学の視点からの鍼灸による認知症予防モデルの開発
- ⑦ 鍼灸による認知症の人を含むご高齢者の不定愁訴の緩和

本日は、上記テーマ実現に向けた東洋医学的な考え方と具体的な方法、および③の成果の一部を紹介させていただきながら、皆様とともに認知症の人に対する鍼灸の役割と可能性について一緒に考えさせていただきたいと思っております。

最後に、2009年11月22日に北海道鍼灸専門学校第2回学術講演会でもお話をさせていただきましたが、ぜひ「道民の道民による道民のための認知症施策」（北海道モデル）の実現に向けて、公益社団法人北海道鍼灸師会および会員の皆様が多職種連携のもとでご活躍されますことを心より、心より期待しております。